

まずは、日食の基本データ

今回の日食の基本データは、国立天文台の「日食各地予報」というホームページでわかります。スタートの時刻だけでも大阪(16:06:20)と神戸(16:05:56)と京都(16:06:34)という感じで違うので、欠け始めを見たい！ という場合は、自分の観察場所のデータを調べておくとよいでしょう。

				
欠け始め 16:06:20	食分0.37 16:40:00	最大食分0.54 17:10:17	食分0.36 17:40:00	欠け終わり 18:07:39

日食を楽しもう 日食グラス・望遠鏡での投影 — 直接見てはダメ！

さあ、そんな日食を楽しみましょう。一番お手軽なのは「日食グラス」「しゃ光板」といった太陽を見るための道具を使うことです。昔使ったものは光が漏れないか(漏れたらダメ)点検してから本番に臨んでください。

望遠鏡があるなら、投影法もオススメです。絶対のぞいちゃダメですよ。図のようにするのです。専用の投影板セットは便利で、あれば使うとよいですが、なくとも、日陰に投影するように望遠鏡を向け、白い板をおいても代用できます。ちなみに双眼鏡でも可能ですが、双眼鏡のプラスチック部品や接着剤が溶けることがあります。



図：日食グラス



図：望遠鏡での投影

日食を楽しもう ピンホール法・木漏れ日利用



図：欠けた太陽型の木漏れ日

他の方法としては、ピンホールが手軽です。ジュニアのページにも紹介がありますが、厚紙や板に小さな穴を開け、その紙などの影を作ります。すると穴から漏れた光が、欠けた太陽の形に見えるというものです。手軽には手を重ねて、指の間にスキマを作るだけでもいけますし、木漏れ日でも同じことが起こります。欠けた太陽の形の木漏れ日はユニークですよ。

渡部 義弥(科学館学芸員)